

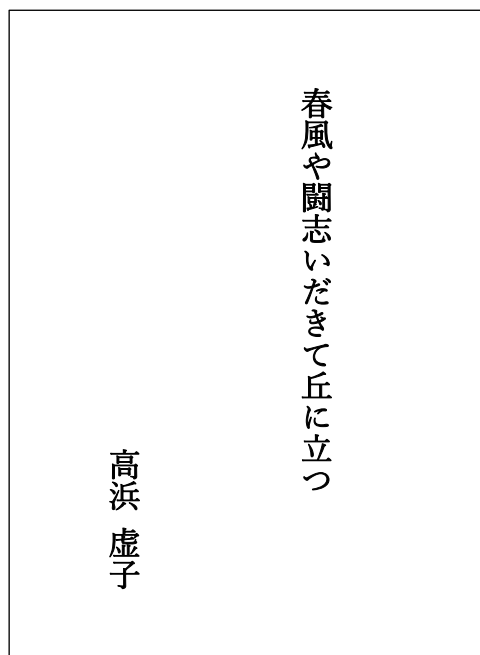
図書だより ライブラリーニュース

Library News

平成 30 (2018) 年 3 月
府中市立府中第八中学校
図書室担当 栗谷千衣子

春は三寒四温といいますが、暖かい日と寒い日が交互にやってきて、桜のつぼみも少しずつ膨らんできました。先日の合唱コンクールは素晴らしかったです。特に3年生の学年合唱は、まさに圧巻という言葉がぴったりでした。良い思い出になったのではないのでしょうか。

さて、みなさんにとってこの一年は、どんな一年でしたか。すてきな本と出会えたでしょうか。読書は心の栄養です。これからも、ぜひたくさん本を読んであなたの大切な一冊を見つけてください。



2月の図書室 (開館日数 16日)

入館者数 547 人 (1日平均 34 人)

	男子	女子	合計
1年生	81	120	201
2年生	81	166	247
3年生	36	63	99

貸し出し冊数 330 冊

学年毎の上位クラス					
1-G	23	2-B	83	3-D	12
1-C	20	2-F	34	3-A	11
1-F	17	2-C	27	3-B	10

平成 29 年度の図書室 (開館日数 152 日) 2月 28 日現在

入館者数 8317 人 (1日平均 54 人)

	男子	女子	合計
1年生	925	1809	2734
2年生	1370	2455	3825
3年生	615	1143	1758

貸し出し冊数 4670 冊

学年毎の上位クラス					
1-G	406	2-B	541	3-A	299
1-F	299	2-E	376	3-D	186
1-A	290	2-F	290	3-B	166

3月のこよみから 3月11日 東日本大震災

2011年3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島沖130Kmを震源とする大規模な地震が発生しました。地震規模はマグニチュード9.0と国内観測史上最大規模の地震でした。そして、この地震に伴い東北地方を中心に想定をはるかに上回る大津波が発生し、被害は甚大なものとなりました。この大震災による死者・行方不明者1万8千人を越え、震災関連死も3千5百人以上となっています。またこの津波により福島第一原子力発電所はメルトダウンを引き起こし、大量の放射性物質をまき散らしてしまい、周辺住民は避難を余儀なくされ、今なお帰宅できない人もいます。

『希望の地図—3・11から始まる物語』 重松 清 著 幻冬舎 913/シ

中学受験に失敗し、不登校になってしまった光司は、2011年の秋、父の友人でライターの田村章が行く東日本大震災の被災地への取材旅行に同行することになった。目の前の困難に立ち向かう人々との出会いに光司は…。作者自身が被災地を取材し、本として出版されたのは、震災から一年後の2012年3月でした。刊行が、震災から日が浅いこの小説を読むと、あの時の人々の大変さや哀しみがとてもよく伝わってきます。ぜひ読んでください。

3月生まれの作家たち (生まれ年の上に*がある作家は旧暦での誕生日を表しています。)

1日 芥川龍之介 1892	6日 重松 清 1963	13日 高村光太郎 1883	25日 樋口一葉 1872
4日 有島武郎 1878	7日 安部公房 1924	17日 横光利一 1898	25日 橋本 治 1948
栗原貞子 1913	8日 水木しげる 1922	18日 松浦寿輝 1954	27日 遠藤周作 1923
6日 大岡昇平 1909	角田光代 1967	20日 ルイス・サッカー 1954	田辺聖子 1928
宮本 輝 1947	10日 石井桃子 1907	21日 江國香織 1964	30日 小川洋子 1962

大正文学の鬼才 芥川 龍之介 (1892~1927)

芥川龍之介は1892年3月1日、新原敏三の長男として東京の京橋に生まれた。辰の年、辰の月、辰の日、辰の時刻に生まれたので龍之介と名づけられた。生後まもなく母の病気により母の実家・芥川家に預けられた。芥川家は代々奥坊主(茶室の管理や接待をする役職)として殿中に勤めた家柄で江戸文化を色濃く保っており、その影響を受けて育った。府立三中(現在の両国高校)から一高へ。一高では菊池寛、久米正雄、山本有三らと同級生となる。1913年に東京帝国大学英文科に入学後は漱石が主宰する木曜会に通った。1916年に発表した『鼻』は漱石に激賞され、新進作家とみなされた。卒業後は教師や新聞社勤務を経て、1918年ごろから本格的な作家活動にはいった。初期の作品は『今昔物語』や『宇治拾遺物語』などを材料に人間のエゴイズムや芸術至上主義などを鋭くえがいたものが多い。彼はこの世で信じられるものは自分の神経だけだと、するどい感性と知性で『蜜柑』『トロッコ』などの作品を書き、やがて大正時代の代表的な短編小説家となった。1925年頃から神経衰弱や胃腸病に悩み、そしてだんだんと「話らしい話のない小説」にあこがれ『河童』などの傑作を書いた。しかし迫りくる新時代の波に「ぼんやりとした不安」を感じ、1927年7月24日自宅で睡眠薬を飲んで自殺した。35歳だった。

春休みの本の貸し出しはありません。卒業する3年生はもちろん1、2年生も必ず本を返却してください。よろしくお願いいたします。春休みは市立図書館を利用しましょう。

3年生のPOP、展示しています

3年生が国語で作ったPOPを、紹介されている本が配架されている本棚の近くに展示しました。力作がたくさんあります。



最も多くPOPが書かれた作家は『君の臍臓をたべたい』を書いた住野よるさんでした。同じ本を紹介するPOPであっても、それぞれ個性があって楽しいです。ぜひ、見に来てください。



きて！みて！よんで！

高校生の物語 春から高校生のみなさんに…
もちろん1・2年生も…

『名もなき風たちーサッカーボーイズU-16』
はらだ みずき 著 KADOKAWA 913/ハ

『サッカーボーイズ』の6作目。2011年、東日本大震災から一月後、遼介はサッカーの強豪校である県立青嵐高校に入学した。これまでチームの中心メンバーとして活躍していた遼介だが、ここでは1年生チームの中のポジションすら確保できずにいた。

『夏の階段』

梨屋 アリエ 著 ポプラ社 913/ナ

希望に胸をくらませて入学した高校。でも新しいクラスメイトとはまだ微妙な関係。中学時代の友だちともなんだか…。地方の進学校を舞台に五人の高校生が織りなす恋と友情、そして未来への葛藤。5つの切ない短編連作集。

ご卒業おめでとうございます

未来に向かって前進するみなさんへ

『人間はだまされるーフェイクニュースを見わけるには』

三浦 準司 著 理論社 070/ミ

たくさんの情報が行き交う現代社会。情報を受け取る力と、発信する力が、ますます大切です。著者はジャーナリストで、情報を受け取る際の「事実確認方程式」を作るようすすめています。フェイクニュースに踊らされないためにも、ぜひ読んでみてください。

『ミライの授業』

瀧本 哲史 著 講談社 159/タ

著者の瀧本さんは、京大客員准教授ですが、投資家でもあり、その投資先は世界が前進するような変革をもたらす人やベンチャー企業です。このような投資家をエンジェル投資家と呼びます。さてこの本は、そんな投資家が行った未来ある中学生への特別授業です。

『危機の現場に立つ』

中満 泉 著 講談社 329/ナ

著者は、日本人女性初の国連事務次長で軍縮担当上級代表の中満泉さんです。高校生の時から国連で働きたいと思い、米国の大学院から国連難民高等弁務官事務所へ。世界の紛争地で働く中満さんの姿に同じ日本人として誇りを感じます。生き方のヒントも多数！

『正しい目玉焼きの作り方』

森下 えみこ(イラスト)著 河出書房新社 590/タ

タイトルだけをみると料理本のようなのですが、サブタイトルは「きちんとした大人になるための家庭科の教科書」とあり、家事全般について、それぞれの分野に監修者がついた本です。いつの日か自立する時のために、また普段の生活のためにもぜひどうぞ。

『アルケミストー夢を旅した少年』

パウロ・コエーリョ著 地湧社 969/コ

アンダルシアの羊飼いの少年サンチャゴは、二度同じ夢をみた。それは夢に現れた子供が、サンチャゴにエジプトのピラミッドに行けば宝物を発見できると言ったのだった。羊を手放し旅に出るサンチャゴ。困難を乗り越え、錬金術師と出会い、目的地へ。そして…。

『ぼくのニセモノをつくるには』

ヨシタケ シンスケ 著 ブロンズ新社 E

けんた君は宿題や片付けなどやりたくないことだらけ。そこでそれらの事をやってもらうために自分のニセモノロボットを作ることにしました。そしてロボットに自分のことを説明しようと、自分とは…と考えます。あなたも一緒に考えてみてはいかがでしょうか。